

## 商店街ぐるみで防災まちづくりに取り組んでいます！

11日～18日の8日間、JR 荻窪駅北口の青梅街道から東京衛生病院までの路地に100軒あまりのお店が軒を連ねる「教会通り商店街」では、商店会の加盟店14軒にモニターを設置し、災害時の商店会の取り組みや防災情報を紹介しています。この取り組みは、東日本大震災を教訓に、いつ発生するか判らない首都直下地震に備え、商店会が日頃から取り組んでいることを紹介することで、地域の防災意識を高めるとともに、安心して買い物を楽しんでもらおうというものです。

教会通り商店街の「荻窪・教会通り新栄会（会長・斎藤敬子・会員数98）」は、近くの天沼八幡神社のお祭りを中心に、様々なイベントに取り組むなど結束が固いことが自慢です。100軒あまりの商店が細く曲がりくねった路地に並び、食料品からファッション、飲食店、医療機関、銀行まで、生活に関することは一通り揃ってしまう商店街で、毎日買い物客で賑わっています。

また、平成23年に東日本大震災が発生すると、いち早く募金活動を行うとともに、いつ発生してもおかしくない首都直下地震に備えるため、専門家を招いて商店街の防災診断を行いました。また、それぞれの商店や商店会として、震災時に何ができるのか、何をすべきなのかを検討してきました。

その結果、まずは災害が必ず起こるということを前提に、安全・安心のまちづくりを実現することが必要という結論になりました。そして、災害時に火災が発生したならば、どこへ避難させるべきか、誘導にメガホンを使用することなど、災害時の対応策を決めました。これらのことを地域の方たちにも紹介しようと、11日（土）から18日（土）の8日間で、商店街の14カ所にモニターを設置しました。今回、初めて行われたこのイベントには、『みんなおいでよ！「安全」商店街で「安心」買い物大作戦』と名付けられました。

さらに、19日（日）には、「防災スタンプラリー」と称して、消火栓、消火器など設置箇所を巡り、東京衛生病院のトリアージ訓練や杉並区の起震車、荻窪消防署の煙体験、緊急炊き出しの実施など、みんなで「体験」ができる催しが行われます。また、気仙沼からも現地で活躍しているNPOの方、津波で流された水産加工所の方も呼び寄せて、水産物のチャリティ販売も実施します。目で、身体で体感できるイベントです。

教会通り商店街の名前の由来になったセブンスデー・アドベンチスト天沼教会（天沼3-17-3）は、商店街の突き当たりの位置にあり、東京衛生病院はこの教会が設置したものです。この商店街の強みは何と言ってもこの病院が、商店会の一員であることです。災害時には、東京衛生病院と連携した応急救護も可能です。

この期間で、買い物客に対し、商店街ぐるみで防災対策に取り組んでいることを紹介し、安全な商店街で安心して買い物を楽しんでもらえるよう考えています。

